

令和7年度 生産性向上の取組に関するアンケート 報告書

令和7年7月



調査概要

【調査の目的】

会員企業の生産性向上への取組状況や課題等を把握し、生産性向上に関する各種会議・要望等の基礎資料として活用する。

【調査の内容】

- 企業の属性について
- ICT施工の取組状況について
- BIM/CIMの活用状況について
- その他

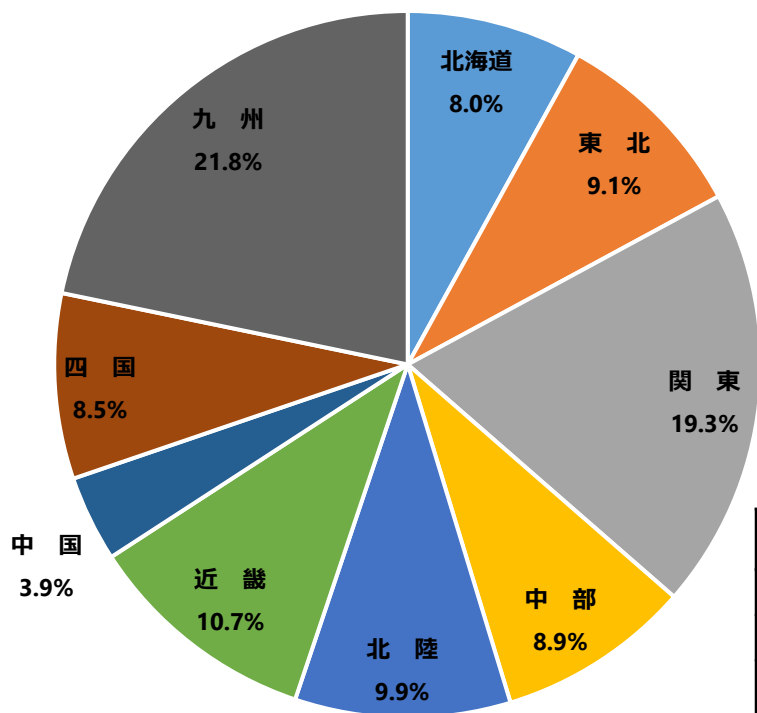
【実施概要】

- 調査期間 令和7年4月～令和7年5月
- 調査対象 47都道府県建設業協会会員企業
- 回答数 計1,958件
- 集計方法 都道府県建設業協会会員企業の回答をそれぞれ単純集計。

※複数回答の設問については回答者数に対する割合を表示しているため構成比の合計が100%を超える場合あり

企業の属性①

【ブロック別】

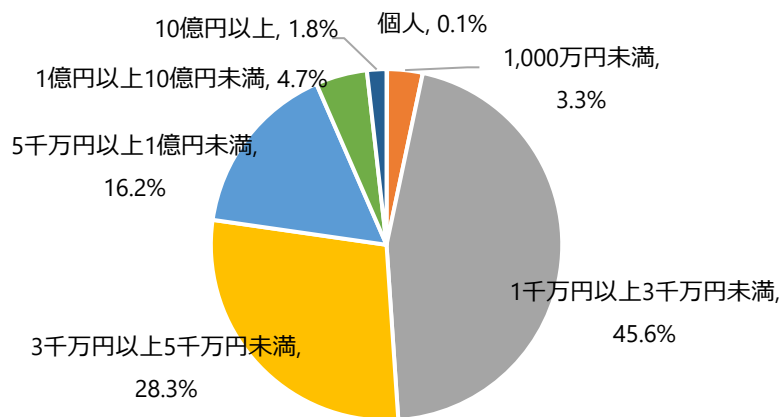


ブロック	都道府県	回答数	構成比
北海道	北海道	157	8.0%
東北	青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島	178	9.1%
関東	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、山梨、長野	378	19.3%
中部	岐阜、静岡、愛知、三重	174	8.9%
北陸	新潟、富山、石川	193	9.9%
近畿	福井、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山	209	10.7%
中国	鳥取、島根、岡山、広島、山口	77	3.9%
四国	徳島、香川、愛媛、高知	166	8.5%
九州	福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄	426	21.8%
合計		1,958	100.0%

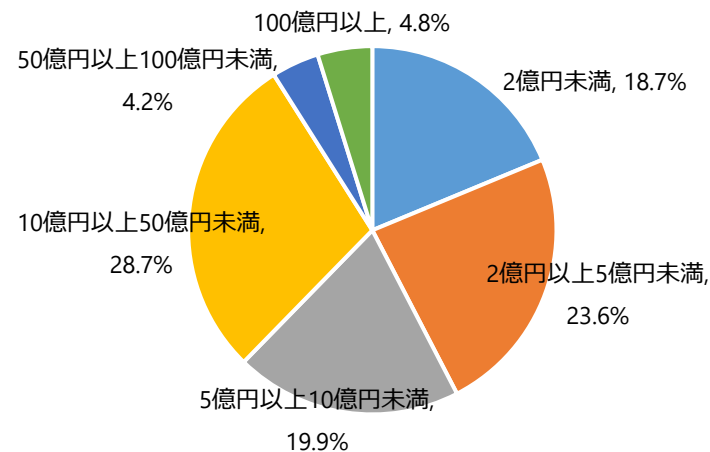
※ブロックは地方整備局単位で区分（新潟県は北陸ブロックに区分）

企業の属性②

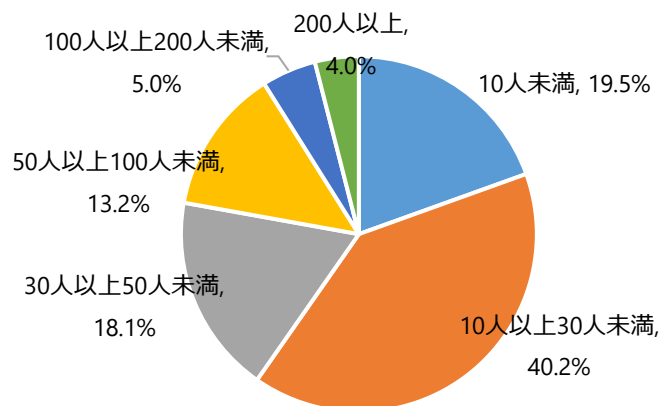
【資本金別】



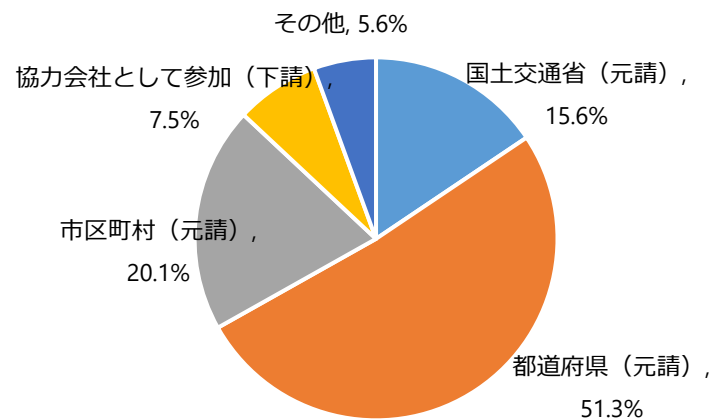
【完工高別】



【従業員数別（常勤役員含む）】



【主な受注先】



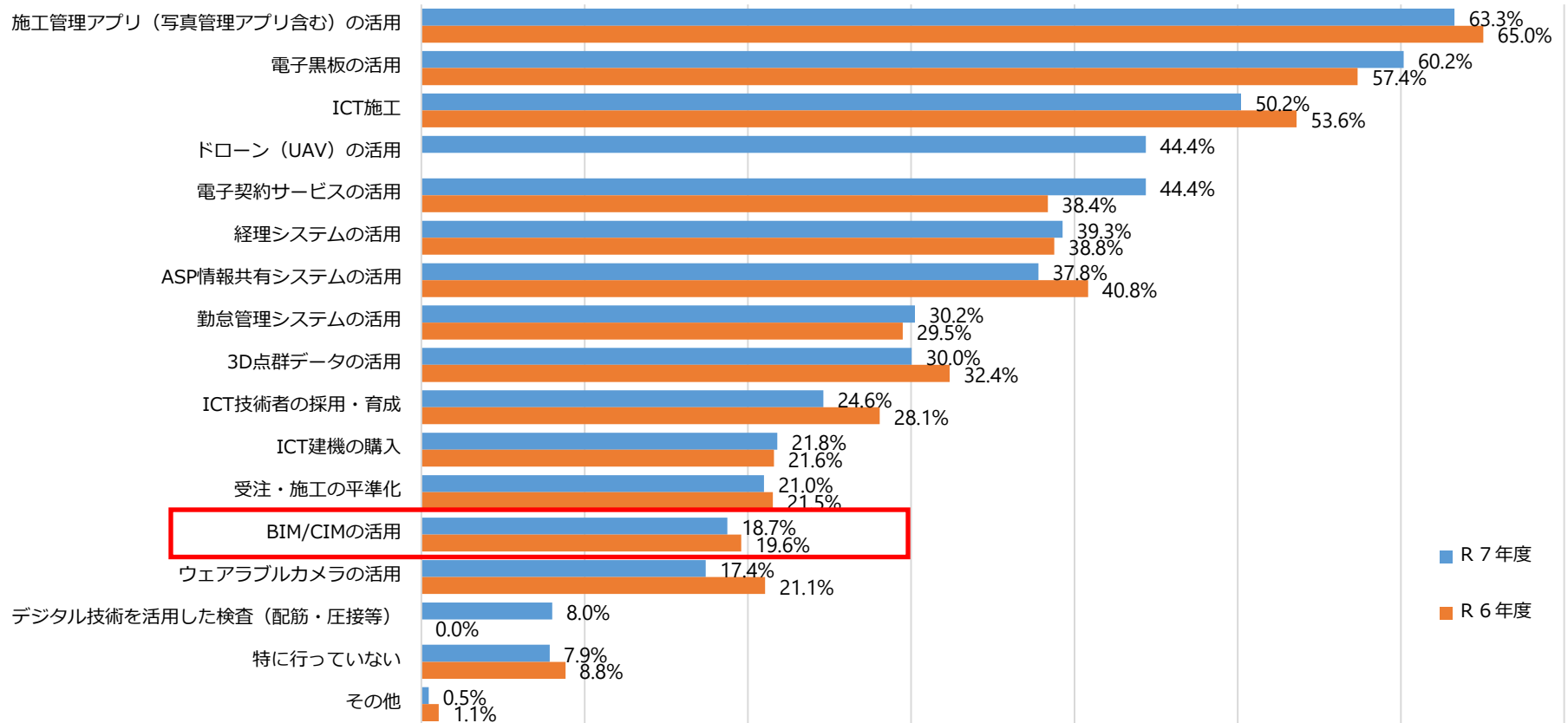
1. ICT施工の取組状況

Q 1 生産性向上のために取り組んだことは？（複数回答可）

令和6年度と概ね同様の傾向であり、「施工管理アプリの活用」、「電子黒板の活用」、「ICT施工」が5割を超え、「ドローンの活用」、「電子契約サービスの活用」、「経理システムの活用」、「ASP情報共有システムの活用」が4割前後となった。

また、「特に行っていない」は7.9%に減少した。

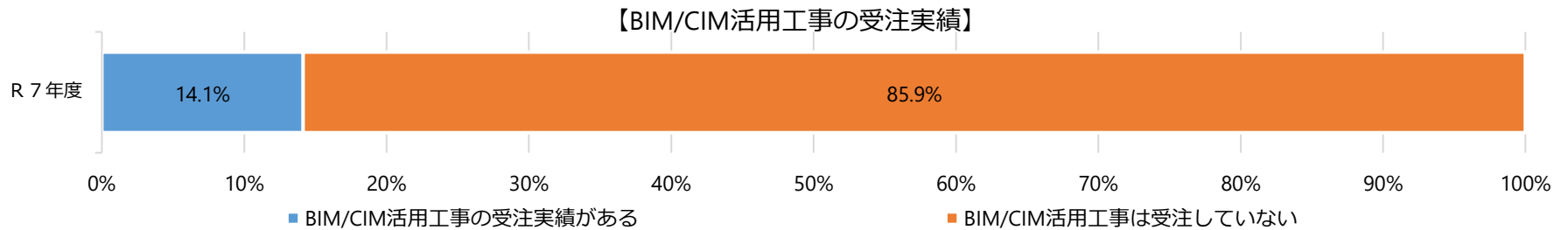
【生産性向上のための取組】



2. BIM/CIMの活用状況

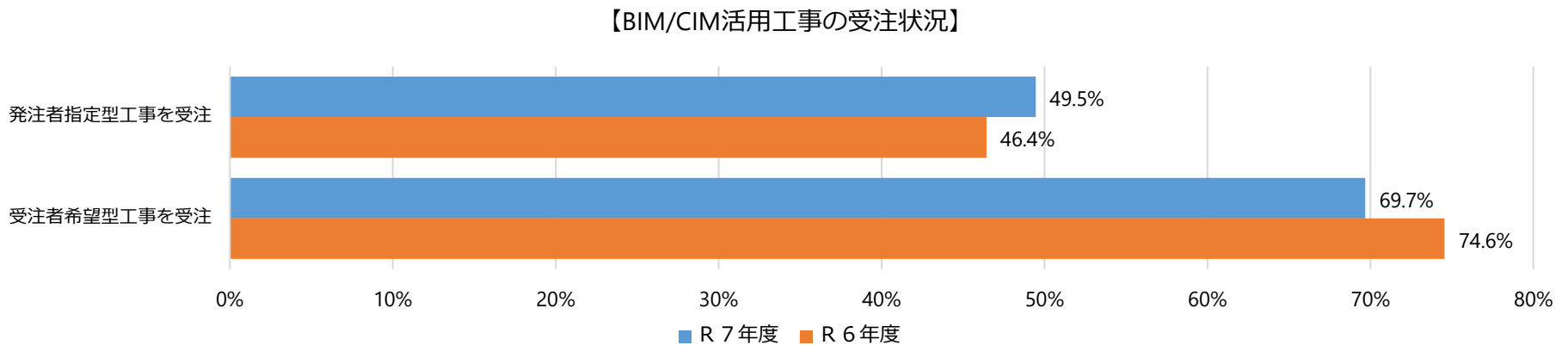
Q 17 BIM/CIM活用工事の受注実績は？

BIM/CIM活用工事の受注実績は、1割程度とBIM/CIM活用工事の発注が進んでいない結果となった。



Q 18 Q 17で「BIM/CIM活用工事の受注実績がある」と回答した方のみ
BIM/CIM活用工事の受注状況は？（複数回答可）

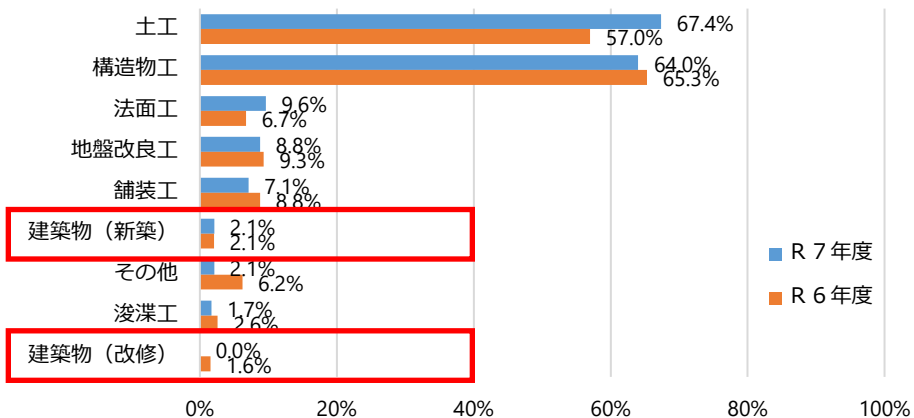
BIM/CIM活用工事の受注状況は「発注者指定型」が5割程度、「受注者希望型」が7割程度となった。
また、令和6年度に比べ「発注者指定型を受注」が増加し、「施工者希望型を受注」が減少した。



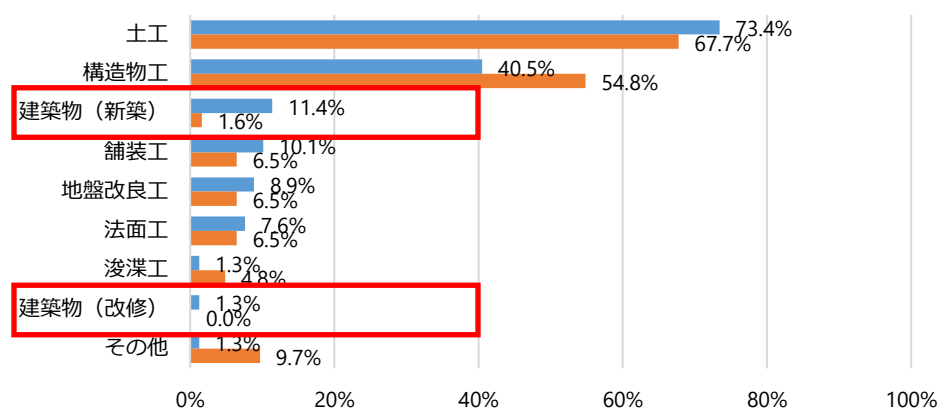
Q19 Q17で「BIM/CIM活用工事の受注実績がある」と回答した方のみ
BIM/CIM活用工事の発注者毎の工種は？（複数回答可）

BIM/CIM活用工事の発注者別実施工種は、国土交通省と国土交通省を除く国では「土工」「構造物工」が多かった。都道府県、市区町村では「土工」が多かった。

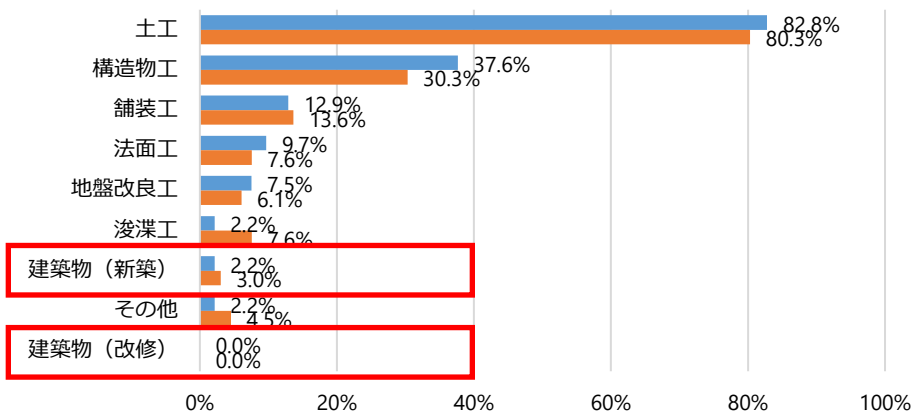
【BIM/CIM実施工種（国土交通省）】



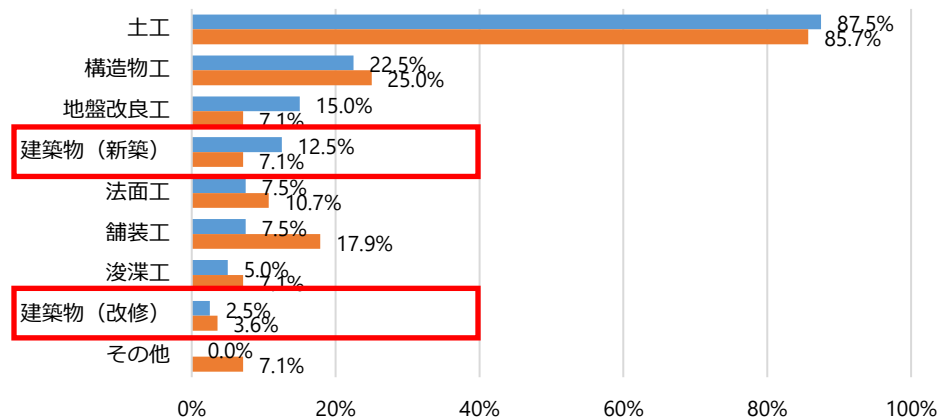
【BIM/CIM実施工種（国土交通省を除く国）】



【BIM/CIM実施工種（都道府県）】



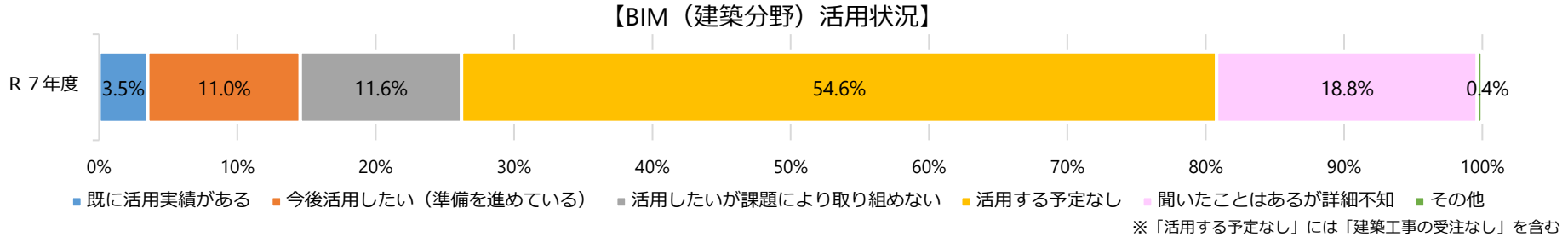
【BIM/CIM実施工種（市区町村）】



Q 2 2 BIM（建築分野）の活用状況は？

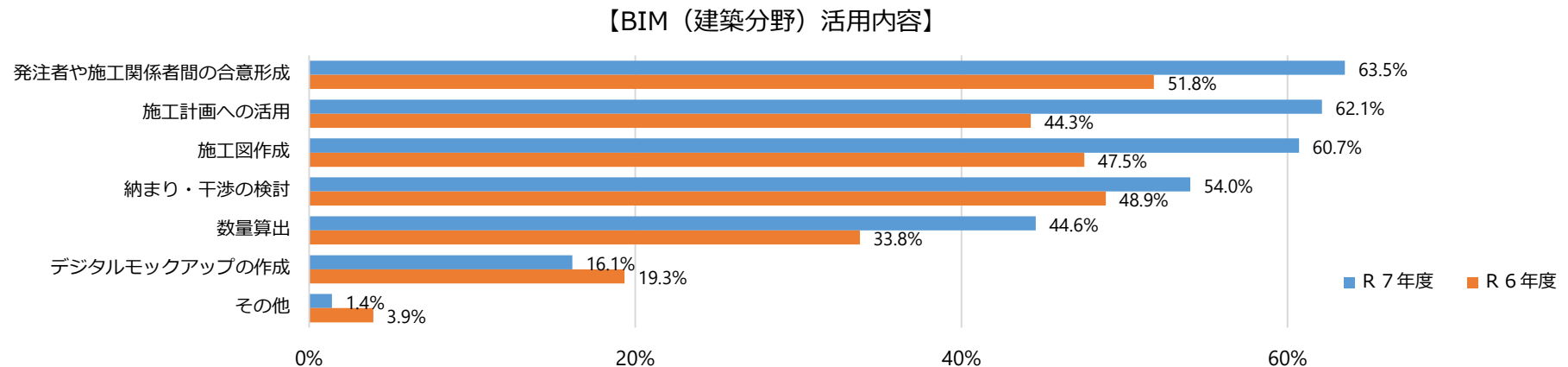
BIM（建築分野）の活用状況は、「既に活用実績がある」が3.5%に止まり、「今後活用したい（準備を進めている）」が11.0%となった。

一方、「活用する予定なし」（54.6%）と、「聞いたことはあるが詳細不知」（18.8%）で7割を超えており、BIM活用・普及が進んでいない結果となった。



Q 2 3 Q 2 2で「既に活用実績がある」、「今後活用したい（準備を進めている）」と回答した方のみ BIM（建築分野）ではどのような活用を？（複数回答可）

BIM活用内容は、「発注者や施工関係者間の合意形成」が63.5%、「施工計画への活用」が62.1%、「施工図作成」が60.7%となった。

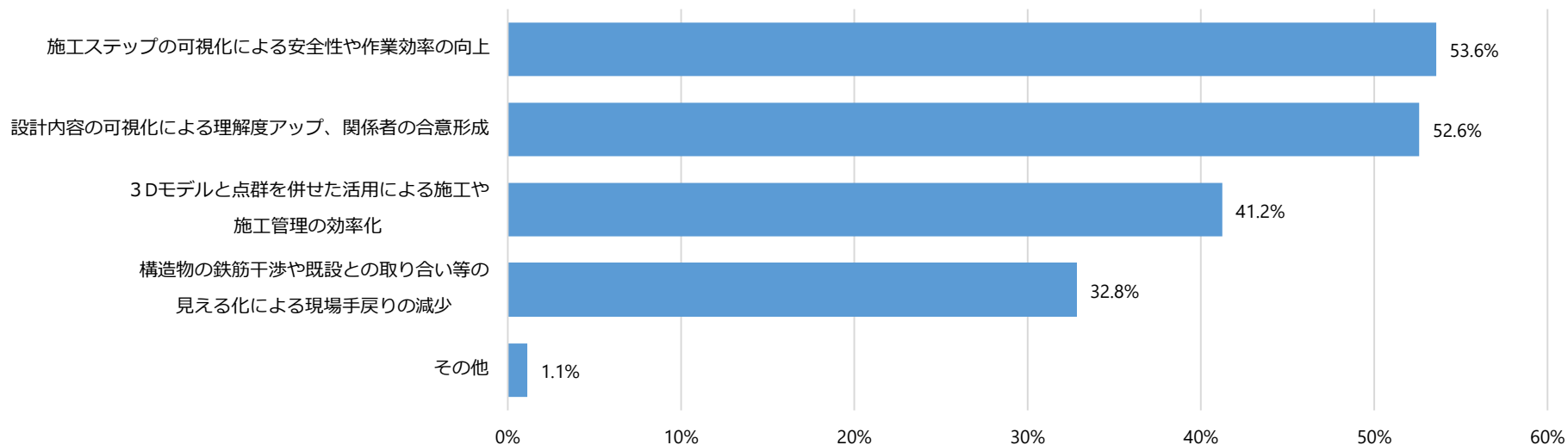


Q24 Q20、Q22で「既に活用実績がある」「今後活用したい（準備を進めている）」と回答した方のみ
BIM/CIM活用の良かった点や期待する点は？（土木・建築分野共通）（複数回答可）

【 BIM/CIM活用の良かった点や期待する点 】

BIM/CIMの活用を通じて良かった点や期待する点として「施工ステップの可視化による安全性や作業効率の向上」、「設計内容の可視化による理解度アップ、関係者の合意形成」が5割を超える結果となった。

【BIM/CIM活用の良かった点や期待する点】

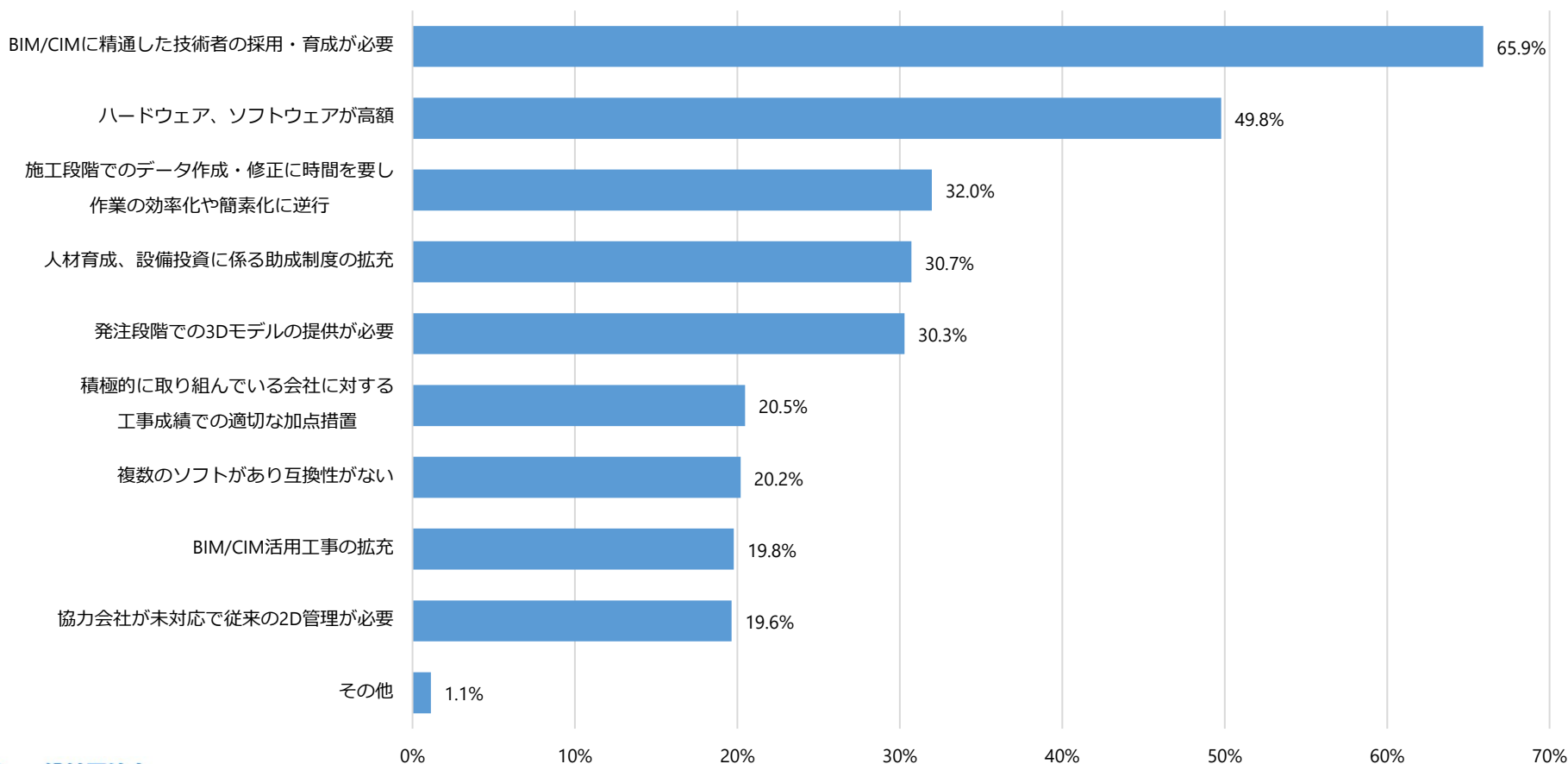


Q25 Q20、Q22で「既に活用実績がある」「今後活用したい（準備を進めている）」と回答した方のみ
BIM/CIM活用の課題や要望は？（土木・建築分野共通）（複数回答可）

【 BIM/CIM活用の課題や要望 】

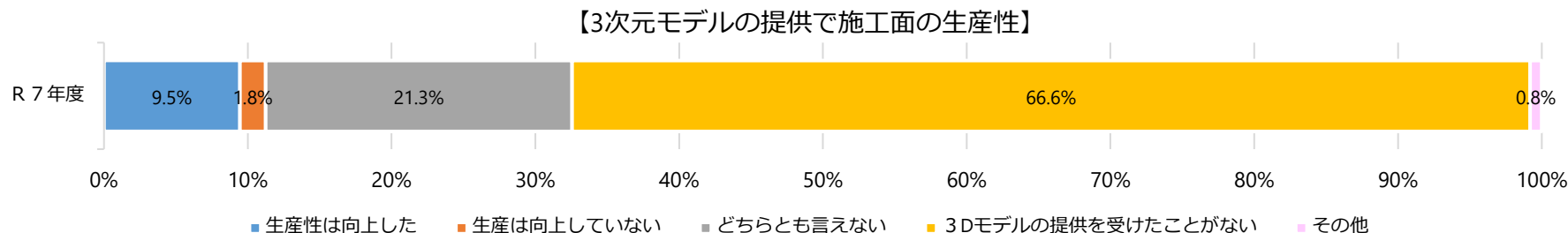
BIM/CIMの活用の課題や要望として「BIM/CIMに精通した技術者の採用・育成が必要」という人材面の課題が最も多く、その次に「ハードウェア、ソフトウェアが高額」というコスト面の課題が多い結果となった。

【BIM/CIM活用の課題や要望】



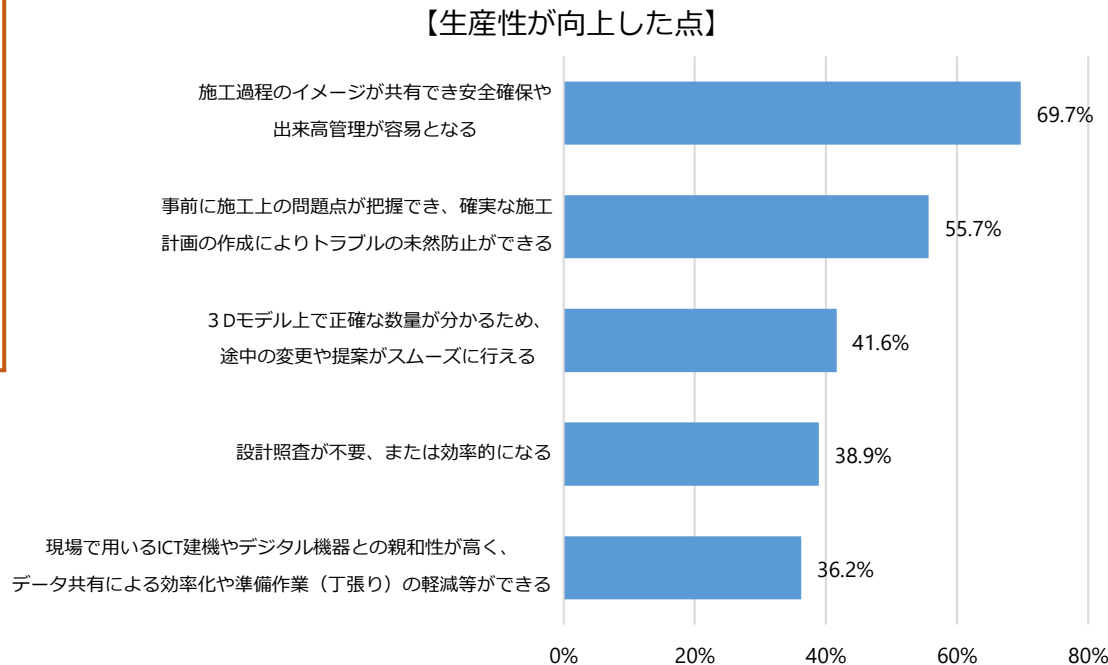
Q 2 6 設計段階で作成された3次元モデルの提供を受けた工事では施工段階で生産性は向上した？

3次元モデルの提供で施工面の生産性は「向上した」が9.5%となり、「向上していない」の1.8%を上回った。一方で「3Dモデルの提供を受けたことがない」が66.6%となった。



Q 2 7 Q 2 6で「生産性は向上した」と回答した方のみ
どのような点において生産性が向上した？（複数回答可）

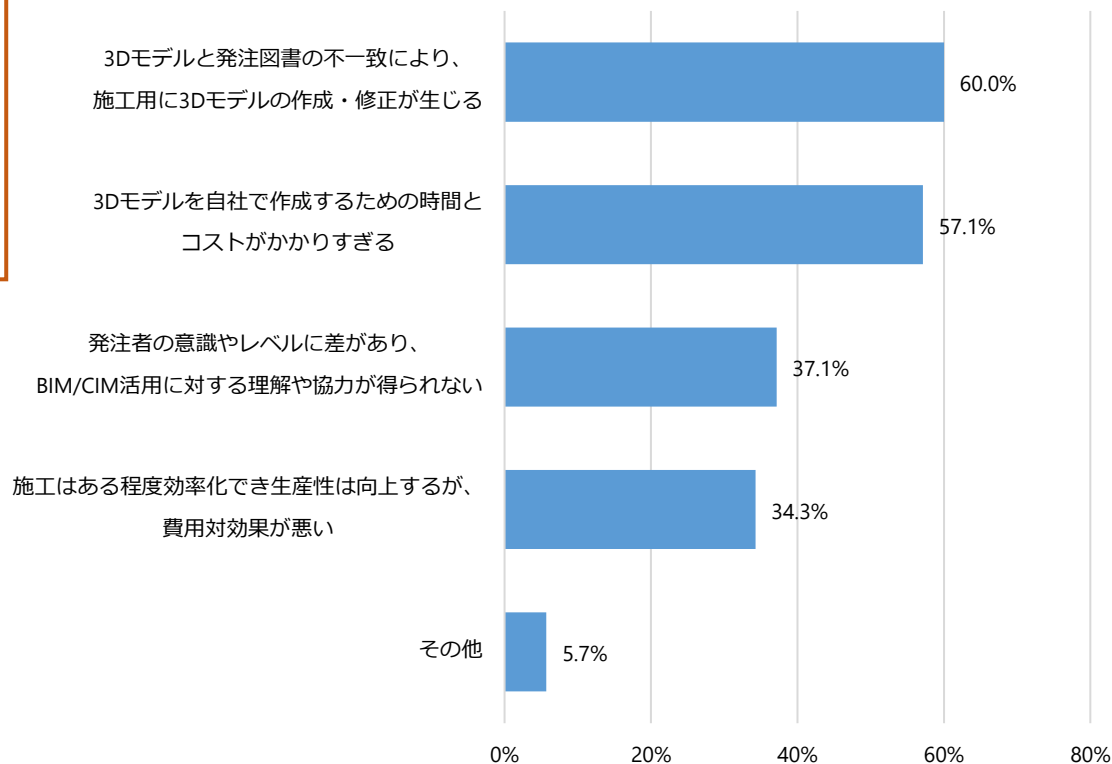
3次元モデルの提供で施工面の生産性が向上した点として、「施工過程のイメージが共有でき安全確保や出来高管理が容易となる」が最も多く、その次に「事前に施工上の問題点が把握でき、確実な施工計画の作成によりトラブルの未然防止ができる」が多い結果となった。



Q28 Q26で「生産性は向上していない」と回答した方のみ
どのような点において生産性が向上していないと感じるか？（複数回答可）

3次元モデルの提供で施工面の生産性が向上していないと感じた点として、「3Dモデルと発注図書の不一致により、施工用に3Dモデルの作成・修正が生じる」が最も多く、その次に「3Dモデルを自社で作成するための時間とコストがかかりすぎる」が多い結果となった。

【生産性が向上していないと感じる点】



【人材育成・支援・助成について】

- ICT施工を進めれば、人員不足による時間外労働を減らし、働き方改革や生産性向上につながると思う。
- 少人数で施工するにはICT施工は良いと思う。技術者不足なので活用する機会が増えてくれば良いと思う。
- IT人材の確保が全産業の課題になっている、特に建設業はIT人材の確保が急務の課題だと思う。
- 現場施工への設備投資はしているが、人手不足で技術者・技能者の維持・増員・育成が困難である。
- 今まで取り込んで来なかった新しい業種の人材を取り入れて建設業の常識を覆す流れを作り、生産性向上を目指す。そのためにはまず待遇を良くして皆が憧れる業種になる仕組みを作ることが大事。給料アップしつつ週休3日制や連続休暇制などを他の業種に先駆けて取り入れ他の業種の人材や若者を取込むことが必要。
- 少子高齢化・人手不足等により生産性向上の取り組みも大事であるが、建設業は良くも悪くもマンパワーが必要な業種であるため、賃金の増加・週休2日等休日の確保等によるイメージアップを図り、働き手を増やす取り組みをしないと、今後、洪水や地震等の災害・除雪への対応や、インフラ点検・修繕が追い付かなくなり、社会が機能しなくなることが懸念される。
- 人材不足が問題視されているこの業界で作業を円滑に進めながら品質を保っていくためにもICT施工の活用は今後もますます必要になっていくと考えられるため、ICTに関する研修の機会を頻繁に設けてほしい。
- 労働力不足が今後も深刻化するであろう状況で、省力化、効率化は企業の大きな課題であるが、DXを推進する上で、DXやICT、BIM/CIMをこなせる人材の確保と、使用するソフト、ハードウェアの取得を推進できるよう、助成金や補助金を拡大していただきたい。
- 大手企業と違い、中小企業には人材育成が難しくIT導入するにも人材と経費が不足している。官庁がリース分を計上した適切な積算を実施してほしい。

【負担軽減について】

- デジタルデータを活用した施工管理や検査の自動化が進み、現場の負担が軽減されれば良いと思う。
- どの取組についても、過渡期と感じる。過渡期だからこそ一時的に生産性の悪化も見られるが、これを乗り越えることで生産性の向上につながると感じている。1社では難しいこともあるため、国土交通省が先導し業界全体で取り組める環境づくりも必要。
- 現場技術者の負担軽減も必要ではあるが、実施工を行う作業員/施工機械の稼働時間を最大にする事が真の生産性の向上につながる。特に地方公共団体発注工事での変更/確認時の手待ち等が改善しなければ、生産性は向上しない。
- IT補助金など部分でのサポートはあるが、会社全体として建設部署とバックオフィス業務（管理会計や日報入力の消極化）などの複合的な効率化への対応できる補助金や給付金などを準備いただきたい。
- ここ最近の弊社工事において一番生産性向上を妨げているのは設計資料の設計ミスである。そのため、コンサルタントが施工性を十分考慮し設計し、積算の内容も十分考慮しながら設計させるべきである。
- 発注段階で3Dデータを頂ければ、現時点で2Dから3Dを作成する手間が省けるので、作業量が減る。
- 企業として生産性向上は以前から取り組んでいる課題であり、時間外労働規制において、働きたいという意向に協会・国として真摯に向き合って善処して欲しい。
- 現場施工前に不確定要素を徹底的に解消すること。小規模工事では未だに完成形状または施工手順未確定のまま発注、着工がされることがある。

【環境整備・その他】

- BIM/CIMは、大手企業だけでなく地域の中小建設者にとっても将来的な技術基盤となるべき重要な仕組みである。小規模事業者が無理なく取り組めるよう、コスト面・技術面・制度面での継続的な支援と、現場実態に即した導入環境の整備をお願いする。
- そもそも市町村レベルの発注者は、生産性の向上など未だに何一つ考えていないし知識すら無い。週休二日もそうだが、その意識が変わらなければ、末端の建設者は取り組めるはずがない。
- 遠隔臨場やASPでの情報共有などは土木で進んでいるが、建築分野に浸透されておらず、発注側で強制がない場合は見送る人も多い。
- BIM/CIM、プレキャスト化に取り組んだ際の工事成績への加点がされているか不明
- CCUSの活用のメリットを増やしてほしい。例えば安全書類の電子化サービス（グリーンサイトやビルディーなど）があるが、そのような民間サービスで実施できる機能を将来的には実装してほしい。これらのサービスは建設業者全体に活用が広がれば大幅な業務効率化につながると考える。
- 働き方改革も含め労働時間の縮小、これから訪れる酷暑期の罰則規定等に対する対応等課題は多く、実質的な労働時間の減少による適正利潤が確保できない。（歩掛の改定が急務であると感じる）